

令和3年度 学 校 評 価

池田高等学校三好校

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価		
学力の向上	(1) 学習意欲を育み、基礎学力の向上を図る(教務課・進路指導課)	(1) 毎時のねらいを明確にし、魅力ある授業づくりに努める。	①生徒の授業満足度 80%以上 ②ICTを活用した授業1人3回以上	①授業満足度調査を行い、各教科の授業づくりに生かす。 ②電子黒板やタブレットを使用した授業を展開する。	①評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。1月に授業満足度調査を実施した。 ②各科目でICTを使った授業調査を月1回(11月～3月)実施した。	①生徒の授業満足度調査 88.4%(満足・おおむね満足) ②ICTを活用した授業1人4回以上	B	BB ○生徒の差は大きいと思うが、今まで取り残されていた子供たちに手が差し伸べられているように思う。 今後とも続けてほしい。	GIGA スクール構想に基づき、ICTを使った授業を一層推進するとともに、教員及び生徒のICT活用能力を向上させる取組を行い、魅力ある授業づくりに努めたい。
		(2) 家庭学習の習慣化を促し、学ぶ意欲を高める。	①1日の平均学習時間 1時間以上	①調査前1週間を家庭学習強化期間として、各自の学習を促す。学習時間調査を年3回実施する。	①期末考査3日前から1週間程度、家庭学習調査をclassiを活用して2回実施。3回目は3月実施予定。	①調査前の平均学習時間1.6時間	B		学習している生徒としていない生徒の差が大きいので、全体的に学習時間が増えるよう促していきたい。
		(3) 生徒の実態に合わせて、個別指導を充実する。	①コグトレの実施 -1年間 60日以上 -2学期末に振り返り ②生徒の成績状況調査 年間2回以上 ③生徒面談回数 1人3回以上	①コグトレを実施し、認知機能の苦手分野を把握し、機能の向上に取り組ませる。 ②成績不振者には補講や追試を行い、確かな学力を身につけさせる。 ③面談週間・家庭訪問週間を各学期当初に設定し生徒の実態を把握する。	①月・水・木の実施予定であったが、実施が不定期になることもあり、機能向上に取り組むまでにはいかなかった。 ②放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。再考査、補講は計画的に実施した。 ③年度当初に2週間の家庭訪問週間を、各学期当初に1週間の面談週間を設定した。長期休業中は必要に応じて三者面談を実施した。	①-1 年間50回実施 ①-2 振り返り 1回 ②生徒の成績状況調査 年間3回 ③生徒面談回数 1人3回以上	B		コグトレの実施方法についてホームルームでのバラつきが見られたので、統一して見えるよう見直していきたい。基礎学力については、まだまだ十分ではないが、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。
		(4) 進路実現へ向けて、基礎学力を養成する。	①マナトレ(国・数)の実施 -1実施回数 20回以上 -27級以上合格率 60%以上 ②基礎力診断・課題テストの実施 年間3回	①マナトレを活用し、国・数の学び直しを行う。 ②基礎力診断テストや課題テストにより、学力の実態把握を行い、基礎学力の向上に生かす。	①各ホームルームに2～3名、教員を割り当て国語は15分間、数学は25分間を設定し、継続的に学び直しを行えた。 ②各種テストから生徒の実態を把握することができた。	①-1 マナトレ(国語・数学) 実施回数 30回 ①-2 7級合格率 国語80% 数学57% ②基礎力診断テスト1回、課題テスト2回	B		継続的に実施できているが、基礎学力の向上・定着にはいたらないので分析しながら、内容や指導方法など改善できるところはしていきたい。
		(5) 各教科の指導力向上を図る。	①職員研修の実施 -1研究授業 1回以上 -2教員間の授業参観 2時間以上	①-1 研究授業を実施し、研究協議を行うことで授業力向上を図る。 ①-2 授業参観週間を設定し、教員相互の意見交換を行うことで、よりよい授業改善を図る。	①-1 研究授業を6月・12月の2回実施し授業後、研究協議会を開催した。 ①-2 授業参観週間を6月・11月に各2週間ずつ設定した。11月にICTを使った授業を校外にも公開した。授業参観シートを作成し、意見交換を行った。	①-1 研究授業 2回 ①-2 教員間の授業参観 2時間以上	B		授業力向上に向け、研究授業や職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
生活力の育成	(1)豊かな心を持ち自律した生活を送る力を育成する(生徒指導課)	(1)7つの心を養い、基本的生活習慣を確立する。	①-1年間遅刻割合3%以下 -2身だしなみ再指導者5%以下	①三好校スタンダードを意識させ、あいさつ・遅刻・身だしなみの3点に重点を置き、指導を徹底する。	①無断での遅刻はないが、遅刻に対する意識の低さが見える生徒がいる。身だしなみへの意識は向上している。	①-1年間遅刻割合 1% ①-2身だしなみ再指導者 3%	A	(1) 評価 (所見) 無断遅刻もなく、身だしなみを整えて生活を送り、通学や学校生活では概ね安全に過ごすことができる。  (2) 評価 (所見) 感染症対策について様々な機会で開催して啓発した結果、生徒は朝の健康観察を含め基本的な感染対策を実践できている。一方、肥満の受診率が低く自己の健康管理には課題も見える。  (3) 評価 (所見) 全員面接のほかに自主的にカウンセリングを受ける生徒が多く、教員の生徒理解が広がるとともに、生徒が自己の課題に向き合う姿勢を支援することによって	AA ○基本的生活習慣を確立できていることが素晴らしい  ○保護者・生徒・学校の連携に今後も努力してください。  AA ○コロナ禍の中、日々緊張が続いたと思われるがよく対応ができています。  B ○肥満の二次受診率が低く、本人への定期体重測定や保護者への定期的な通知を実施し、受診率向上につなげる。  B ○カウンセリングが全員にできて、支援ができていることは素晴らしい。	保護者との連携をより密にし、登下校での生徒の時間や服装にも注視し協力していく。  車両点検は今後も確実にやっていく。また、自転車だけでなく、バイクでの実技講習も行っていく。  年度当初の新入生に問題が起これるので、早期発見できるように面談や生活相談ができる体制を充実させる。  ICT活用を含め、より効果的な啓発や感染症対策の実施方法を検討する。  肥満の二次受診率が低く、本人への定期体重測定や保護者への定期的な通知を実施し、受診率向上につなげる。  次年度以降も研修日を2日に分け 受講率向上を図る。
		(2)交通事故を起こさない。	①-1自転車整備点検 年間3回 -2自転車交通加害事故 0	①自転車運転事故の防止に重点を置き、車両点検・実技指導・登下校指導・交通安全指導を行う。	①-1車両点検は春・秋の2回は専門業者による点検、3学期は交通委員による点検を実施した。 -2自転車事故はなかったがバイクによる接触事故があったが手足の擦過傷だけであった	①-1 3回 -2 自転車での交通被害無し バイクでの事故一件	B			
		(3)いじめを起こさない。	①いじめの早期発見早期解決 推進	①生徒と教師の信頼関係を基にいじめのアンケート調査を年間3回行い、気になる事例には、組織的に対応する。	①いじめ調査の結果は大きな問題もなく、担任による面談や生活相談などで早期対応により、問題発生前に解決している。	①いじめ調査 3回実施	A			
(2)健康で安全な生活をおくる力を育成する(保健厚生課)	(1)組織的な感染症対策を進め、感染症を予防する。	①感染症対策についての保健だより・掲示物の発行 年10回以上	①保健だよりや掲示物を発行し、感染症対策について啓発する。 ②対策マニュアルに基づく確実な実施と対策の定着を図る。	①コロナが落ち着いている時期は感染症対策以外の内容で保健だよりを発行したが、代わりに集会での周知・保健委員の放送を実施した。 ②朝の健康観察と放課後の消毒を継続した。健康観察では、2学期から健康観察アプリを導入した。	①保健だより・掲示物の発行 8回	B	B ○コロナ禍の中、日々緊張が続いたと思われるがよく対応ができています。  B ○肥満の二次受診率が低く、本人への定期体重測定や保護者への定期的な通知を実施し、受診率向上につなげる。  B ○カウンセリングが全員にできて、支援ができていることは素晴らしい。	I C T活用を含め、より効果的な啓発や感染症対策の実施方法を検討する。  肥満の二次受診率が低く、本人への定期体重測定や保護者への定期的な通知を実施し、受診率向上につなげる。  次年度以降も研修日を2日に分け 受講率向上を図る。		
	(2)健康課題を把握し、個々の健康管理を支援する。	①二次検診受診率 50%以上	①健康診断結果通知と個別の保健指導を実施し、健康課題を把握させ二次検診受診率の向上に努める。	①健康診断の結果通知を終了後すぐと3者面談時の2回実施した。個別の保健指導は、心電図、肥満・尿の二次検診対象者に実施した。	①二次検診受診率 心電図 100% 肥満 12.5% 尿 100%	B				
	(3)学校安全に対する実践力を高める。	①救急法等の職員研修受講率 100%	①AED職員研修を実施し、救急救命の実践力を向上を図る。	①コロナ禍で講師派遣が出来ず、養護教諭が2日に分けて実施した。欠席者には資料を配付した。	①受講率 95%	B				
(3)自分の課題や悩みに向き合い、たくましく生きる力を育成する(保健厚生課・進路指導課)	(1)教育相談(特別支援)活動を生徒理解と支援につなげる。	①スクールカウンセラーによるカウンセリング 年100回以上	①全員面談を実施し、生徒の実態を把握する。必要な生徒は個別のカウンセリングにつなげ、支援体制を充実させる。	①4月～6月に「君のこと教えてシート」を用い一人3分程度の全員面談を実施できた。	①カウンセリング 延べ270回(うち全員面談91回)	A	AA ○カウンセリングが全員にできて、支援ができていることは素晴らしい。	次年度も全員面談を実施し、生徒実態の把握や個別カウンセリングにつなげ支援体制の充実を努める。  実施した支援の直後に結果が出ないことが多い。そのことを認識して粘り強く生徒に対処してもらえよう伝えることが肝要である。  今まで通り生徒の実態把握を適切に行い、生徒のニーズに応えられるツールを準備したい。		
	(2)生徒の困難さを把握し、ニーズに応じた支援を進める。	①知能検査と学級満足度調査 1・2年生 各1回 ②特別支援教育研修会 年2回以上	①1・2年生に対して知能検査と学級満足度調査を実施し、生徒理解に努める。 ②ニーズに合った職員研修を実施し、アンケートにより次回内容の選択や改善に活かす。	①1・2年生に対して知能検査と学級満足度調査を実施した。 ②全教職員の研修はコロナ対策で避け、講師派遣を受けて相談会を2回実施した。 ③新規事業として特別支援教育支援員を配置した。	①学級満足度調査-QUで生徒の内面把握に役立っている。 ②少人数の相談会で和やかに進行でき、好評であった。 ③1週間に10時間、対象生徒の授業に配置して、効果的な指示をしている。	B				
	(3)ソーシャルスキルを向上させる。	①ソーシャルスキルトレーニングのホームルーム活動 各学年1回以上	①ソーシャルスキルトレーニングの観点からのホームルーム活動を実施し、社会生活で困らない経験をさせることや困ったときの対処法を実際に行動できるようにする。	①ソーシャルスキルトレーニングのホームルーム活動を1学期・2学期毎に1回行った。	①それぞれの学年で必要なソーシャルスキルを身につけるため、各担任が講義やワークショップ形式などクラスの実情に合わせて工夫して実施している。	A				

(4) 集団のなかで仲間と協力する力を育成する(特別活動課)	(1) 仲間づくり・協力をテーマにしたホームルーム活動を実践する。	①ホームルーム活動満足度 80%以上	①生徒の実態に合わせて、人間関係づくりを進めるホームルーム活動を工夫して実施する。	①人権学習や人間関係作りのレクリエーション等のホームルーム活動を通して、学年やHR単位での活動を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てることができた。	①ホームルーム活動満足度 91%	A	いる。 (4) 評価 (所見) ホームルーム活動や学校行事の満足度は高く、望ましい人間関係が育っている。部活動の数が少なく入部率は低迷している。 (5) 評価 (所見) 計画に沿って概ね活動でき、防災士の合格者も増加した。美化意識や環境意識、防災意識の高まりが活動を通して感じられる。 (6) 評価 (所見) 身近な人権問題や同和問題をテーマとした資料を作成し、各ホームルームでの指導に活用でき、考え行動する力を養うことができた。	BB ○生徒数減のため部活動はできないのは仕方がないが、活発になってほしいと願います。 ○池田高校として三校がもう少し交流できないものか。 ①アンケート等で生徒の意見をすくい上げ、生徒のニーズに合わせた行事を展開したい。また、生徒会を中心として生徒主体の行事運営をよりいっそう発展させたい。 ①入部率は49%にとどまったが、入部者の部活動満足度は87%と高かった。2学年になってから入部する生徒もいることから、入部者の満足度を高めることも重視したい。
	(2) 生徒会による行事を企画実施させ、自主性を育てる。	①学校行事の満足度 80%以上	①生徒会活動としての行事(前日祭等)を、計画段階から、生徒主体の活動となるように支援する。	①生徒会役員が中心となり、生徒へのアンケート等、生徒の意見をくみ上げる工夫をして実施することができた。その中で、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることができた。	①学校行事の満足度 82%	A		
	(3) 部活動の活動内容を工夫し、加入促進、活動充実感を高める。	①部活動加入率 65%以上	①入部を奨励し、各部活動内容をホームページにアップするなど部活動の充実に取り組む。	①部活動見学週間に新入生全員が複数の部活動を見学した。また部活動紹介でICTを用いるなど工夫を凝らした紹介を行った。しかし、「魅力的な部活がない」等の理由で新入生の入部率は51%にとどまった。	①部活動入部率 49%	B		
(5) 環境を守り、自他の命を守る力を育成する(環境防災課)	(1) 新学校版環境ISO活動により、美化意識と環境意識を高める。	①-1 地域環境美化活動年間3回実施 ①-2 校内美化活動実施率85%以上 ②地域資源保護活動年間2回以上	①校内外の清掃美化実践をする。 ②ゴミの分別100%を目指し、エコキャップの回収と活用を実践する ③毎月の電気使用量についてデータを配布し、こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。	①概ね実施できた。 ②概ね実施できた。 ③記録はできたが、啓発は出来なかった。	①地域環境美化活動を2回実施 ①校内美化活動を5回実施 ②ゴミの分別を清掃時に毎日実施 エコキャップの回収も継続 ③電気データの記録年1回	B	AB ○校内美化活動はすばらしいように思う。 ○これからも防災士受験を積極的に行ってください。	全ての活動について継続して実施し、美化意識と環境意識を高めるようにしたい。 今年度の活動を継続し、コロナの終息状況により地域との連携活動を実施していきたい。
	(2) 地域防災の担い手意識を持った防災リーダーを育成する。	①高校生防災士講習参加 3名以上 1名以上合格 ②地域防災組織との連携 2回以上 ③職員・生徒対象AED研修実施	①学校全体で防災学習、防災訓練を進め、防災意識を高め、意欲ある生徒に防災士の取得を奨励する。 ②地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。 ③災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全確保を目的とした防災研修を実施する。	①概ね実施できた。 ②あまり実施できなかった。 ③概ね実施できた。	①高校生防災士3名受験、合格2名 ②三好市防災会とのメールで情報交換年3回 ③生徒対象訓練1回、職員対象訓練1回	B		
(6) 差別を許さず安心できる生活を築く力を育成する。(人権教育課)	(1) 身近な問題から差別を見抜く力を養う。	①-1 「学校人権の日」の資料作成 4回以上 ①-2 人権講演会・映画会などの実施 2回以上	①「学校人権の日」の取組や、内容の充実を図る。毎日の生活にある人権問題について提議し、身近な問題について考えさせる。	①コロナ感染症による差別やパラリンピック・戦争による人権問題など身近な問題を取り上げ、人権について考える機会とした。	①「学校人権の日」資料作成 6回 ①人権講演会・映画会 2回	B	BB ○社会に出て考え行動する力を養ってほしい。	「学校人権の日」の取組に資料の作成やクラスへの説明を通して人権委員が関わられるようにする。 部落差別は偏見がもたれて起こる。正しい知識を学習することで差別を許さない姿勢を持つことを同和問題を学習することで身につける。
	(2) 同和問題学習や人権学習を深め、主体的に考え、問題解決へ行動する力を養う。	①同和問題についての学習 各学年1回以上 ②活動的な内容を取り入れた人権ホームルーム活動 各学年2回以上	①学校の活動内容や生徒の実態に合わせた内容で同和問題を学習する。 ②行動力の基礎となる知識と当事者になったときの行動力を身につけるホームルーム活動を実施する。	①就職・結婚というこれから生徒が直面する内容に合わせて同和問題を取り上げ学習した。 ②当事者となって具体的な問題の解決につながる行動力を身につけるホームルーム活動を実施した。	①同和問題についての学習 各学年1回 ②活動的な内容を取り入れた人権ホームルーム活動 各学年2回	B		
	(3) 教員の指導力を高める。	①人権職員研修 年3回以上	①各研究大会や研修会の内容をまとめ、教職員の教材研究に役立て、	①人権講演会の案内をした。各研究大会や研修会の内容をまとめ	①人権職員研修 1回	C		

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
社会性の醸成	(1)主体的に進路を考え、進路実現に取り組む意欲と態度を育成する。(進路指導課)	(1)自己理解を進め、適性・能力を加味して、主体的に進路を考える。	①-1 キャリアパスポートの実施 3シート 年間8回以上 ①-2 進路希望調査 年間2回	①キャリアパスポートを利用した面談の実施や、目標を設定し、結果の振り返りを通して自己理解を深める。また進路希望調査を行うことで、進路に対する意識を高める。	①楓際の中止でキャリアパスポートの回数は減ったが、キャリアパスポートや進路希望調査を活用し、担任や進路課との面談を実施することで、自己理解や進路指導につなげることができた。	①-1 キャリアパスポート 2シート 年間6回実施 ①-2 進路希望調査 年間2回実施	B	(1) 評価 (所見) キャリアパスポートへの記録が定着し、自己理解につながっている。主体的に進路を考える上で進路ガイダンスや学校企業見学は効果があった。	BB ○在学中にいろいろな情報を与え、卒業時には全員進路決定をお願いしたい。  ○生徒があまりにも家族的になってしまい、社会へ出て対応できない子(離職するなど)にならないようお願いいたします。	キャリアパスポートの様式の見直しを行うなど活用しやすいものにしていきたい。また進路に関する情報不足を感じるため、進路情報の提供を定期的に行うようにする。
		(2)事業所・進学先・ハローワーク等との連携により最新の進路情報を把握する。	①進路ガイダンス・講演会の実施 各学年 2回以上	①上級学校や企業・地元商工会議所やハローワーク等と連携し、各学年に応じた講演会やガイダンスを行うことで、様々な情報を入手し、進路選択の幅を広げる。	①コロナの影響で、中止や延期またはオンラインに切り替わることもあったが、状況に応じて有意義なガイダンスを実施することができた。	①進路ガイダンス・講演会 1年 12月・2月 2回実施 2年 12月・1月・3月(予定) 3回実施予定 3年 7月 3回実施	A		ガイダンスから刺激をうけ進路実現に向けてスタートする生徒もいるので、できる範囲で企業ガイダンスも含め今後も実施していきたい。	
		(3)進路実現のために行動する努力をさせる。	①オープンキャンパスまたは職場見学への参加率100%	①オープンキャンパスや職場見学に積極的に参加し、体験したことを進路実現のために生かす。	①第1希望である学校や企業への見学は概ね参加できた。複数参加はできなかったが、適性を見て希望を変更する生徒もいた。	①オープンキャンパス・学校説明会への参加率 100% 職場見学への参加率 93%	B		見学することで分かることも多いので、コロナの影響がいつまで続くか分からないが、積極的に参加させていきたい。	
	(2)地域社会をリードする特色ある農業教育により、社会を担う意欲と態度を育てる。(農業科)	(1)地域連携活動に積極的に参加し、実践力と地域への誇りを育てる。	①地域・企業・研究機関等と連携した取組 年間60回以上	①先進地研修や地域と連携した研究など専門教科の充実を図り、農業への関心・意欲を高める。	①コロナ禍で制限がある中、年間44回の地域や研究機関との連携・協働した取組を実施することができた。	①地域と連携した取組の推進 年間44回	B	(2) 評価 (所見) 地域等の協力を得て連携活動やインターンシップが継続でき、社会性や学ぶ意欲が向上している。	AB ○テレビ、新聞でも発信されていて頑張っている様子がわかる。  ○校内にある実習用機械設備を地域の中で活用する方法を検討してはどうか。	これまで培った地域貢献活動の振り返りとICTを活用した連携活動を実践する。  地域の課題を把握し、その解決を目指す研究を充実させるとともに、各種発表に繋げていく。
		(2)学校農業クラブ活動により科学性・社会性・指導性を育成する。	①各種発表、各種競技での成果 県予選3種目以上入賞	①各学科、専攻での特色を活かした、専門性を深化させる研究活動の充実を図る。	①プロジェクト発表は県で最優秀となり四国大会へ出場。意見発表においても優秀賞を獲得した。測量競技では事務局として運営に尽力した。	①学校農業クラブでの成果 県予選会入賞2種 四国大会入賞1種	B		引き続き、合格率目標を定め、資格・検定試験の受験を推奨する。	
		(3)職業資格の取得により専門性を向上させる。	①校内外での資格取得者 延べ人数年間50人以上 ②日本農業技術検定合格率 60%以上	①積極的な資格取得を奨励し、補習計画等、体制づくりに努める。 ②計画的な指導で日本農業技術検定の合格率を向上させる。	①②補習計画を立て、全農業教員が指導に当たった。農業技術検定合格者は前年度より増加した。	①資格取得延べ人数 56名 ②農業技術検定合格率 53.6%	B		先進地研修や農林業体験の充実を図り、就農への意識を高める。	
		(4)職業体験による職業観・勤労観の育成する	①地域・企業と連携した職業体験活動 各学科3日以上	①インターンシップの実施により、望ましい職業観や勤労観、主体的に進路選択できる力を育成する。	①各専攻の特色を生かした職業体験を計画、実施することができた。	①地域・企業と連携したインターンシップ 食農科学科 5日 環境資源科 3日	A			
	重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
活動計画の実施状況						評価指標の達成度	総合評価			
学校運営の充実	(1)教職員の活力を増進し、地域との協働により学校運営を充実させ、学校教育力を高める。(教頭・総務課)	(1)学校運営協議会の意見を学校運営に反映する。	①各委員からの意見の聴取と、学校運営の改善と充実 推進 ②三校連携事業の実施 検討・推進	①学校運営協議会へ参画し、必要に応じてPTA・同窓会等とも連携し、学校運営に生かす。 ②三校連携事業の実施を検討する。	①コロナ禍の影響で、初回の開催が予定より遅くなったが、HPの充実について・地域の人材活用について・学校評価について以上3点について説明し、委員の方々より意見を頂いた。 ②コロナ禍の影響で、教育活動に	①委員からの意見を地域連携、学校HPの充実等、学校運営に生かした。 ②コロナ禍の影響で実施できなかった。	B	(1) 評価 (所見) 学校運営協議会を三校そろって発足	BB ○HPの更新には頭が下がります。  ○三校連携の一例として、三好	本年度もコロナ禍の影響で、制約下での教育活動となった。感染状況を見極めつつ、委員の意見を可能な限り学校運営に反映することで、教

			制限があり、検討・推進に至っていない。			でき、委員意見を運営に生かす体制が整った。ホームページ更新はよく行い閲覧数も伸びている。タブレットの整備に伴う教育効果とともに教員負担については注視する必要がある。	地域の割り箸工場に見られる林業と福祉の連携活動の歴史に学び、池田三校の学科で割り箸の社会教育ツールとしての可能性を考えてみるのはどうか。	育活動の充実を図りたい。
(2)教育活動の広報、中学生への情報発信を強化し、進学希望者を増やす。	①-1 学校 Web ページの情報発信 年間100回以上 ①-2 教育活動等のマスコミ報道 年間10回以上	①学校Web ページ、異校種間連携等での情報発信を積極的に行い、専門高校の魅力を広くアピールする。	①教育活動や感染予防の啓発等について学校 HP を利用し、リアルタイムに発信することができた。	①-1HP の更新回数 132 回 ※令和4年1月末現在 ①-2 マスコミの報道回数 5 回 ※令和4年1月末現在	B			保護者、同窓生、地域等の学校理解を推進するため、次年度以降も学校 HP を活用し、生徒の活動を発信する。
(3)学校運営を支える施設設備を充実整備し、活用する。	①生徒一人1台のタブレット及び電子黒板の有効活用 推進	①タブレット及び電子黒板に係る職員研修を実施し、有効活用を推奨する。	①タブレットの活用方法、電子黒板の利用についてそれぞれ職員研修会を実施し、教員の指導力向上を図った。	①職員研修実施回数 2 回 電子黒板の使用頻度 46.7 %	B			次年度以降も継続し、職員研修会、公開授業週間等を設定し、電子黒板、タブレットを活用した授業スキルの向上を図る。
(4)働き方改革を進め、教職員の活力を増進する。	①-1 教職員数の確保 学校図書館司書、進路事務等を確保することにより教員の負担を軽減する ①-2 有給休暇5日以上取得 100 % 夏休5日取得 100 %	①教職員の負担を軽減し、ワークライフバランス、休暇取得を奨励する。	①-1 年度当初より学校図書館司書、進路事務者を確保することができた。 ①-2 休暇取得状況をシステムにより確認することで、有給休暇・夏休の取得を定期的に推奨した。	①年度内に学校図書館司書及び進路事務の雇用で教員の負担軽減につなげることができた。 ①-2 夏休の1人当たりの平均取得日数は4.0日であった。	B			外部の教育資源との連携、活用をおし、教職員の負担軽減につなげる。